

<b>〔科目名〕</b> 社会と人間	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目(第2群)																					
<b>〔担当者〕</b> 佐々木てる	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:随時 授業終了後にアポイントをとること 場所:大学院棟 1201 佐々木研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義																					
<b>〔科目の概要〕</b> 本講義は社会学の基礎的な思考を学ぶことを通じて、われわれが生活している社会がどのように成り立っているのかを考えるものである。 われわれの生活は様々な人間関係、そして社会的事実によって成立している。例えば、国家、資本主義、地域社会、家族など身近に感じるしくみは、あたり前に存在しているように思えるが、成立には歴史的背景や変化、変動が存在する。そうした普段あたりまえだと思っている、人間生活の仕組みや生活世界を、成立の過程から捉えなおし、社会の根本を考え直すことにする。 またこういった当たり前と感じている社会空間を捉えなおすことによって、現代社会で起こっている、様々な社会問題に対して、自ら立ち向かえる力を養ってもらう。																							
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> より複雑化する後期資本主義社会、もしくは成熟社会において、社会の仕組みや成り立ちを捉えなおすことは、今生活していることそのことについて決定的に重要である。国家はなぜ、いつできたのか。なぜわれわれは資本主義システムのもと生活しているのか。そもそも資本主義システムの根本は何か。家族とはなにか。教育とは、学校とは、地域とは、、、こういったことを正面から考えることは普段あまり行うことがないだろう。こうした自分が置かれている社会そのものを考え直すことは、生きていく上で必須だと考えられる。																							
<b>〔科目の到達目標〕</b> 社会学の基礎的な考え方を学ぶことが到達目標となる。 具体的には、われわれの現代社会を成立させているシステムが何か。それはどのように私たちの社会に機能しているのかを学んでもらう。そのために、過去の社会学者の研究内容や理論なども学ぶことにする。 講義ではトピックごとに理解を深め、それを積み重ねてもらおう。そのため段階的に目標を設定する。①社会学的思考、社会学の仕事から。②基礎的な社会の仕組みを考える。資本主義、権力、国家など。③身近な社会を捉える。地域、家族、学校システムなど④グローバルな視点から考える。⑤社会問題とはなにか。おおよそこの 5 つのトピックを理解することを通じて、社会学的な考えを学ぶ。																							
<b>〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕</b>																							
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		○	○	○			
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
	○	○	○																				
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> おおむね好評であったため、昨年と同様の形式で行う。わからない事は、自分で予習・復習すること。さらにわからなければ、直接質問してもかまわないで、自己努力もしてほしい。また要望、相談などあれば学期の途中で申し出てもかまわない。可能な限り対応していく予定である。																							
<b>〔教科書〕</b> 特になし。授業中にレジュメなどを配布する。																							
<b>〔指定図書〕</b> 特になし																							
<b>〔参考書〕</b>																							

〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価の方法に関しては、第一回目の授業で詳しく説明するため、必ずそれを聞いてほしい。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 基本的には講義スタイルであり、しっかり聞き内容を理解することを望む。また、わからないことがあれば、積極的に質問を行ってほしい。特に社会学の基礎的な考えを学ぶにあたり、自分が常識と思っていることにとらわれず、常にそれがなぜ常識と思っているのかを考え直す姿勢を持って、授業に臨んでほしい。	
〔実務経歴〕 特になし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション:社会学の対象とは 内 容： 科目内容の確認、授業方針、成績の付け方など全般にかんするガイダンスを行う
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 社会学の基礎①:社会学の古典 内 容： 社会学の古典から社会を捉えなおす。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 社会学の基礎②:社会学者 内 容： 社会学者の業績を振り返り、社会学の系譜を理解する。その際、各研究者が社会のどの部分を見ていたか感がえる。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 社会学の基礎③:社会学のテーマ 内 容： 社会学のテーマを確認し、社会学の対象としている「社会」を捉えなおし、復習する。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 資本主義、階級、格差問題① 内 容： 人間社会の大きな社会変化を捉えなおす。その第一として資本主義を考える。資本主義の成立、その特徴をとらえる。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 資本主義、階級、格差問題② 内 容： 階級社会、労働問題について根本的な理解を深める。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： 資本主義、階級、格差問題③ 内 容： グローバルな資本の問題、地域間格差、消費社会についての根本を理解する。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： 前半試験 前半の社会学者の業績、社会学の思考方法、資本や現代的な格差問題に関して試験を行う。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)： 社会変動①:国家と支配 内 容： 社会変動とは何かを学ぶ。その上で国民国家の成立を理解する。 ここでは国家というシステムを対象とする。

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 社会変動②:社会秩序と権力</p> <p>内 容： 人間社会における社会秩序の変遷を、権力の視点から捉える。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 社会変動③:国家とグローバル化</p> <p>内 容： 国家、権力を学んだうえで、近代国民国家の役割とグローバル化について学ぶ。 また昨今の国際紛争に関して考える。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 社会問題の社会学①:ジェンダー</p> <p>内 容： 社会問題とは何かを学ぶ。フェミニズム運動を考える。 近年のムーブメントとして、LGBTQ について学ぶ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 社会問題の社会学②:恋愛と家族</p> <p>内 容： デートDV、DV、児童虐待、高齢者虐待など恋愛、家族に関する社会問題をあつかう。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 社会問題の社会学③:差別</p> <p>内 容： 様々な社会的差別の問題を扱う。差別とは何かを考える。 具体的には民族差別、日本の被差別文化、そのほかの差別問題を知る。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 後半試験</p> <p>内 容： 後半の内容、社会変動、社会問題に関する試験を行う。</p>
試験	